

# 3-4号ヘッドランド間について

数値計算による地形変化予測結果



千葉県

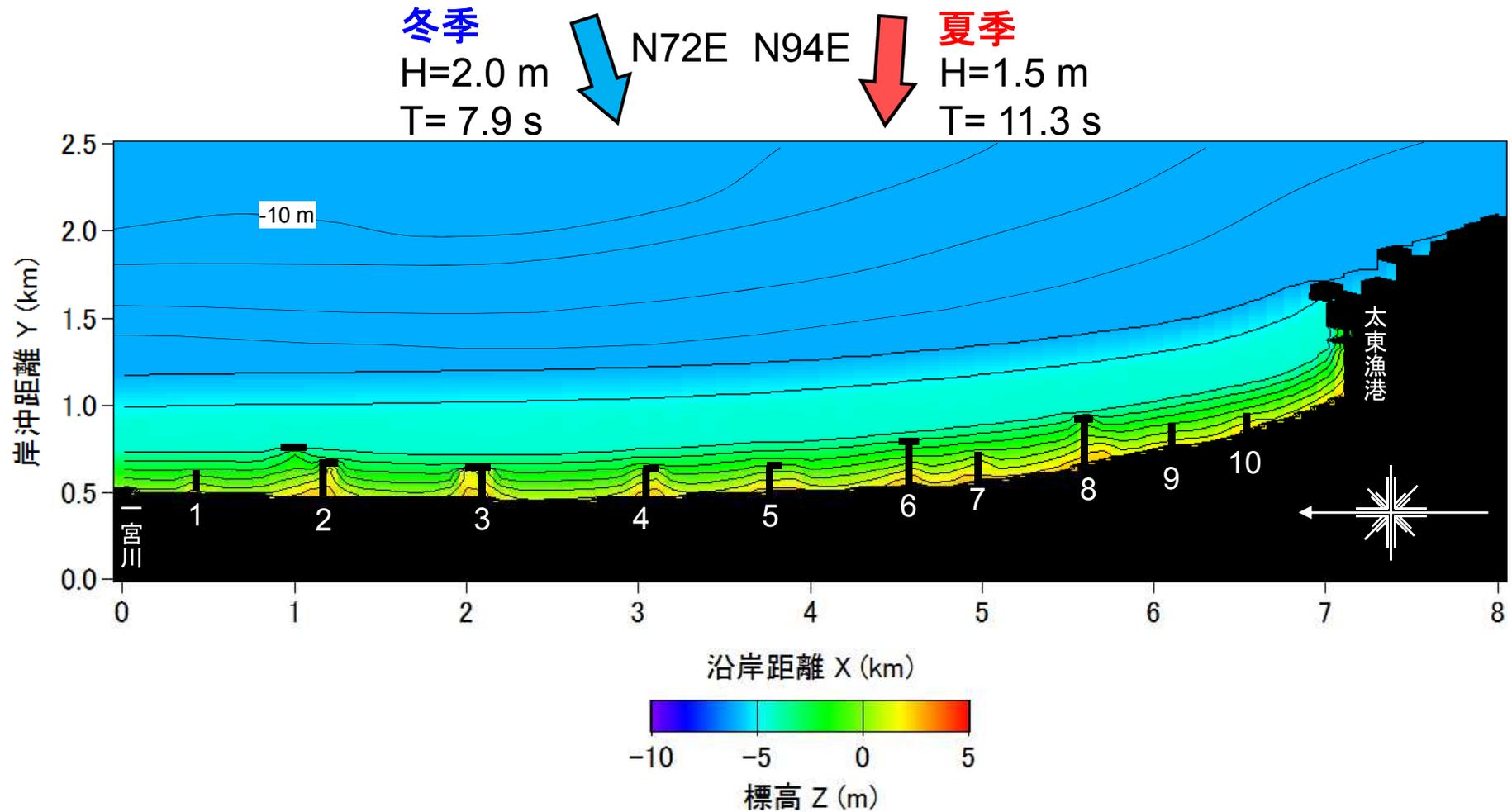
# 検討ケース概要

ケース	計算内容
1	<b>現況放置(2062年)</b> 2012年再現地形を初期地形とし、4号HLを <b>無対策</b> のまま放置し、 <b>50年後</b> を予測(2062年)
2	<b>4号HL対策(2062年)</b> 4号HL <b>横堤</b> を <b>90m</b> 延伸し、 <b>粗砂養浜</b> ( $1.0 \times 10^5 m^3$ )を行った場合の、 <b>50年後</b> の予測(2062年)

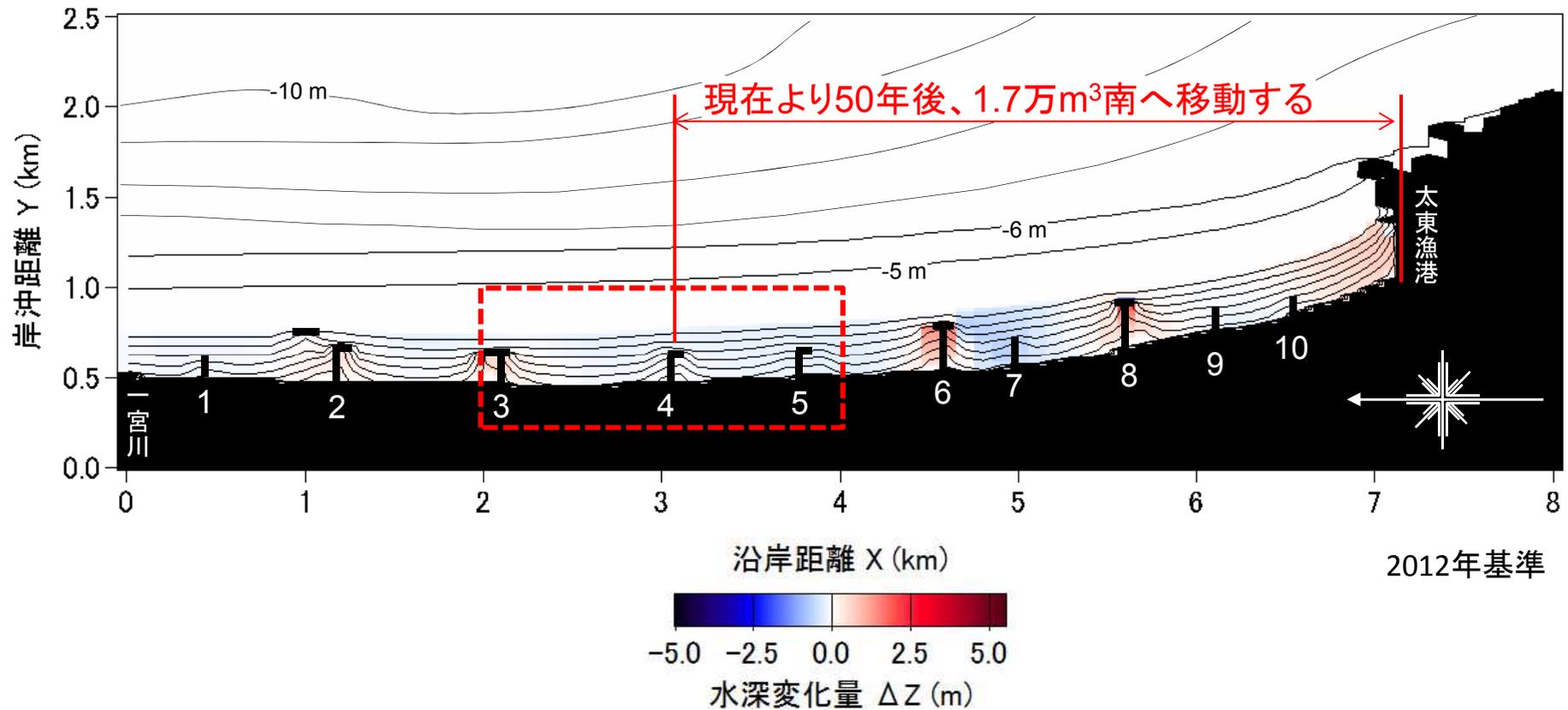
# ケース1 現況放置(2062年)



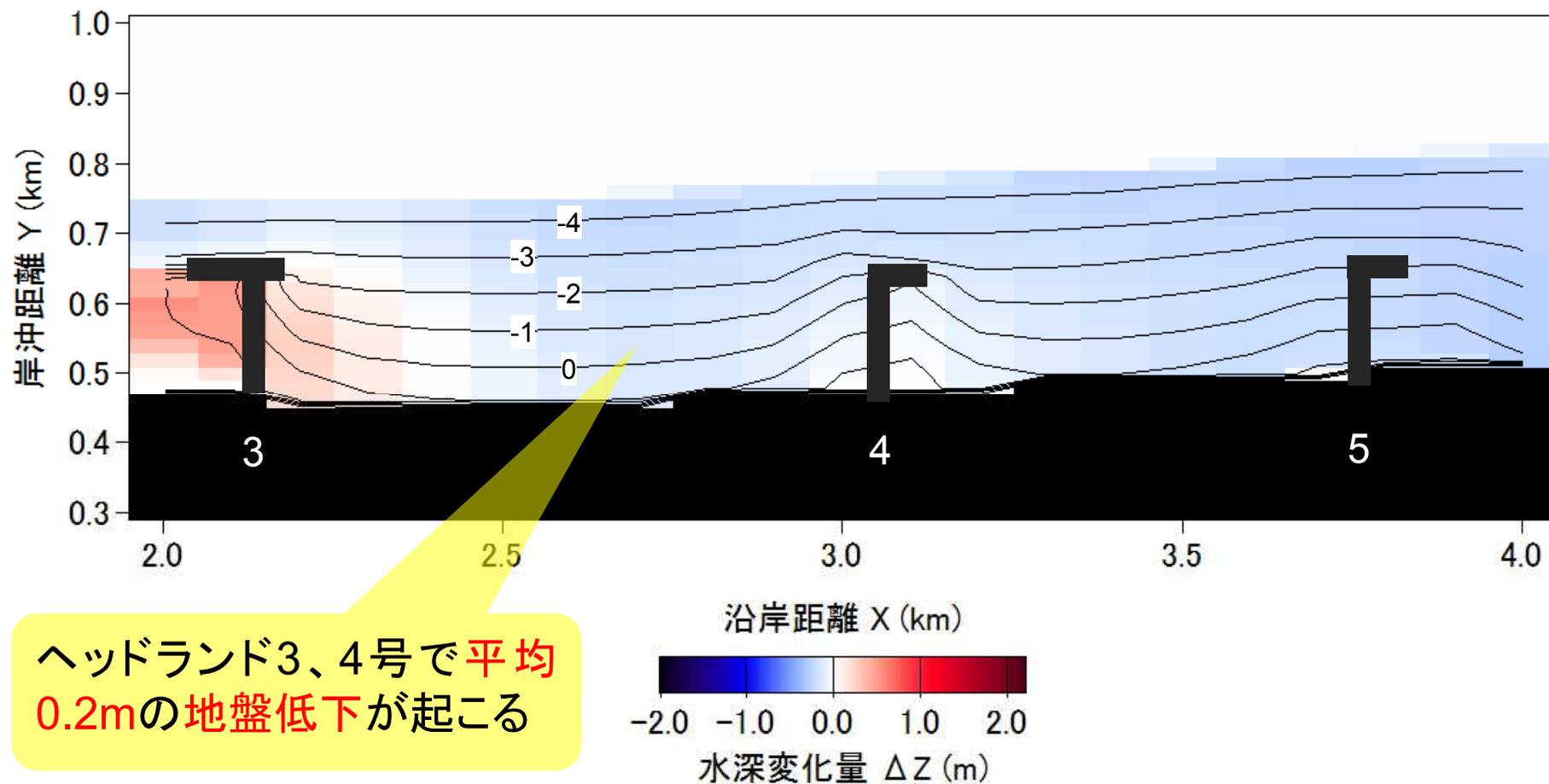
# ケース1 初期地形(2012年)



# ケース1 水深変化量(2062年)

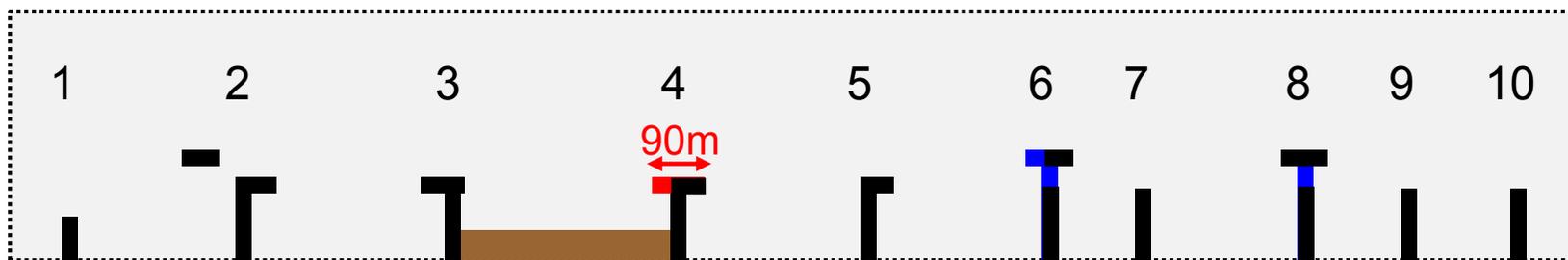


# ケース1 水深変化量(2062年)

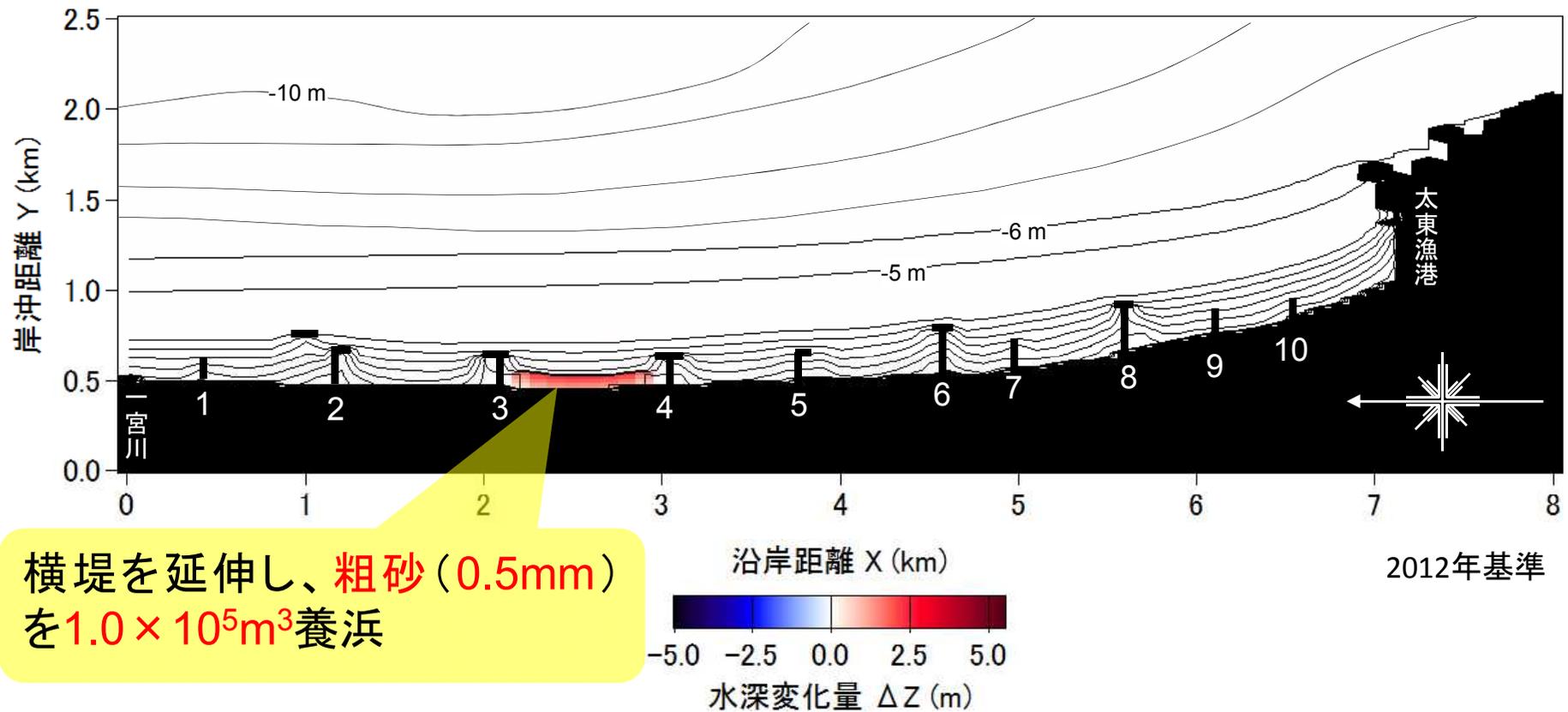


# ケース2

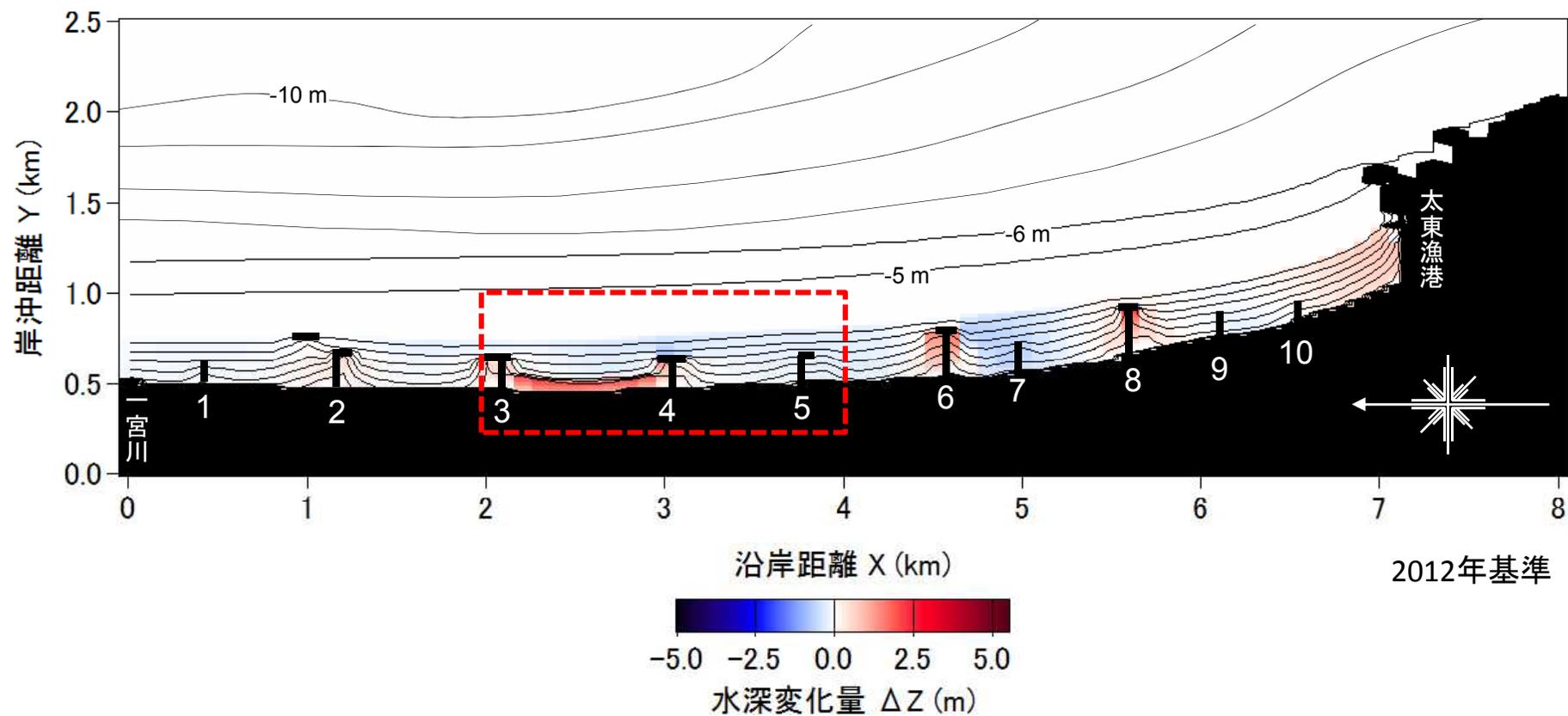
## 4号HL対策(2062年)



# ケース2 水深変化量(2012年)

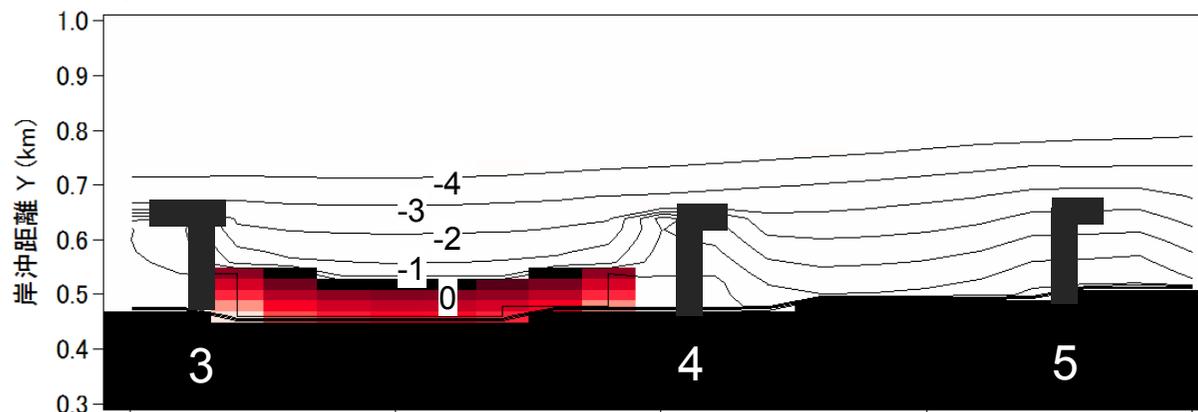


## ケース2 水深変化量(2062年)

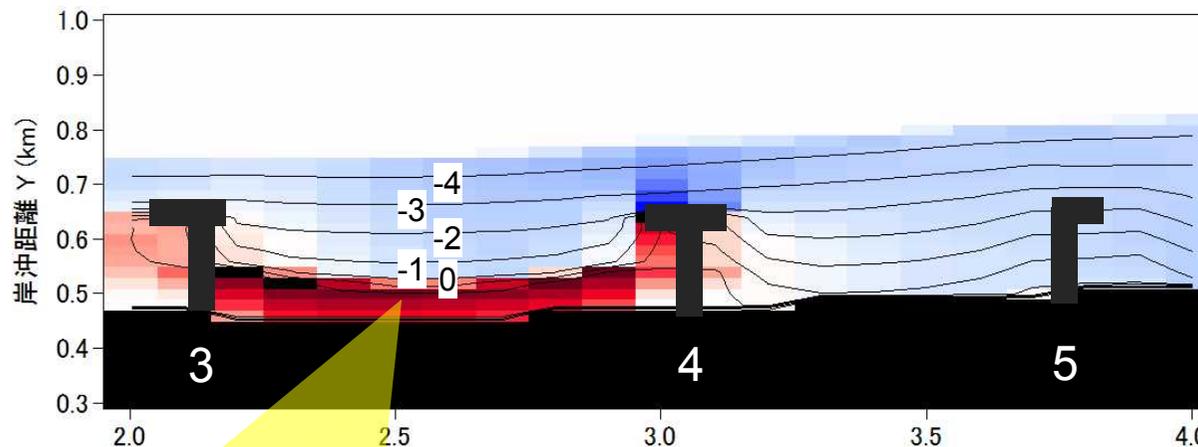


# ケース2 水深変化量(2062年)

2012年



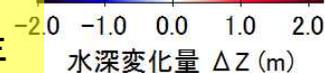
2062年



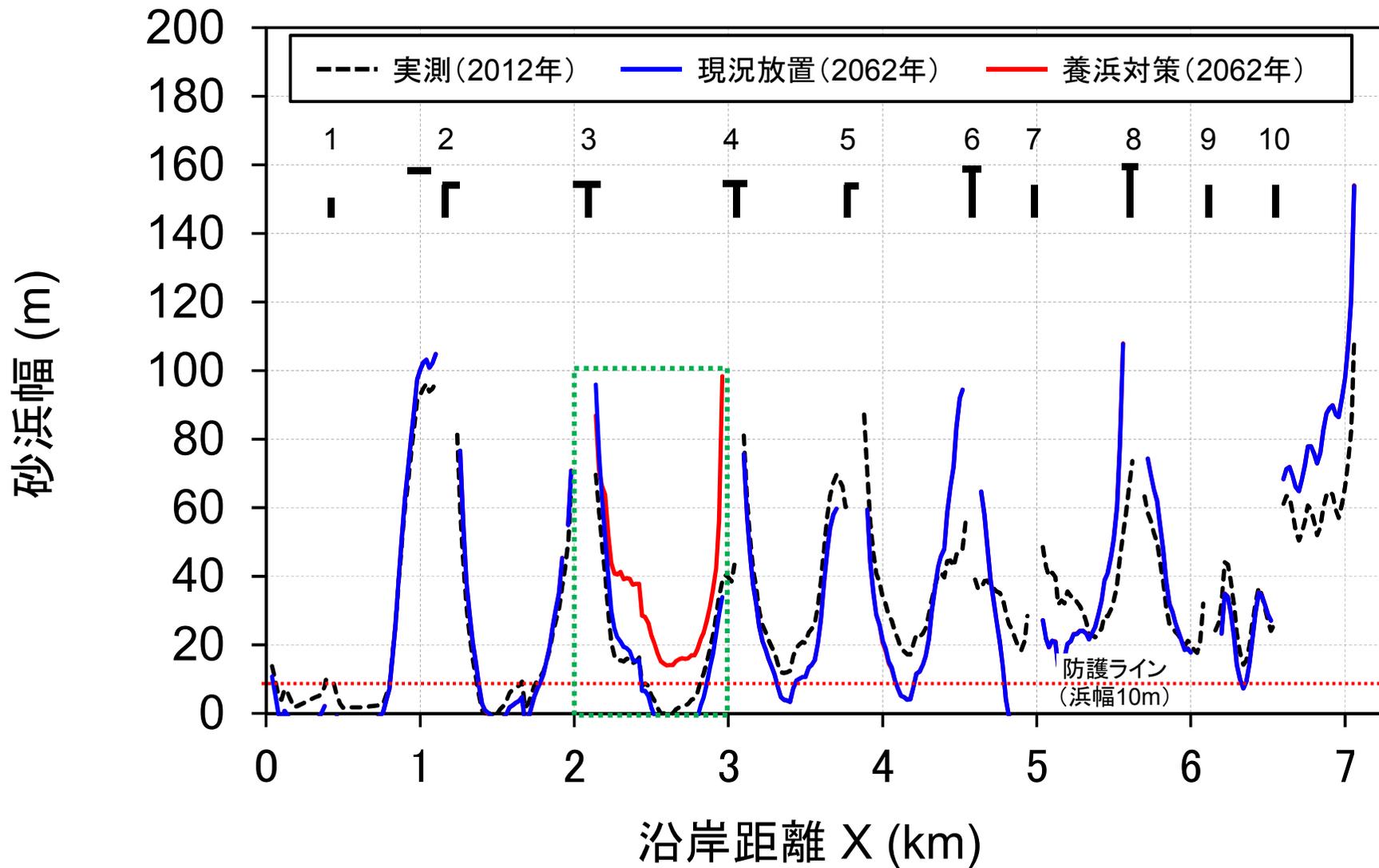
沿岸距離 X (km)

2012年基準

横堤を延伸し、粗砂を $1.0 \times 10^5 \text{ m}^3$ 養浜したことで、前浜の地盤が平均0.5m上昇し、50年後も前浜が維持される結果となった。

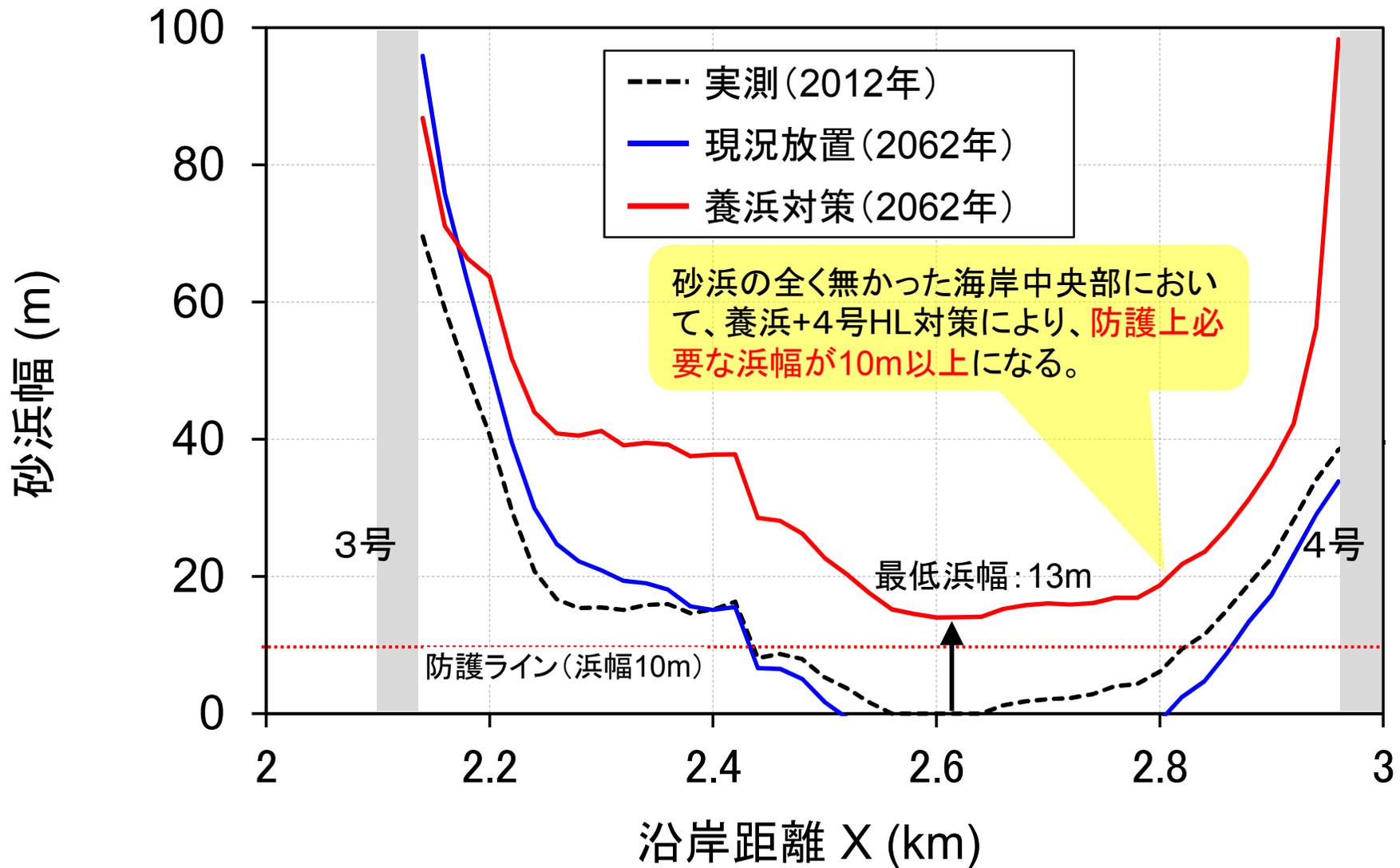


# 砂浜幅比較(ケース1、2)



2012年再現地形

# 砂浜幅比較(ケース1、2)



2012年再現地形